

風景の交換と共有に関する実験的研究

An experimental research of scene exchange and sharing

時空間デザインプログラム

08_16279 土屋陽子 Yoko Tsuchiya

指導教員 土肥真人 Adviser Masato Dohi

第1章 はじめに

1-1 研究の背景と目的

私たちは日々周囲の人々と共に過ごす中で価値ある空間と時間を生み出している。このように私たちは無意識のうちに「風景を共有」していることで他者との繋がりを形成しかつ強くしているのである。本研究では、この潜在的で直感的にでしか捉えられない「風景の共有」について実験的に分析・考察しその実態を明らかにすることが目的である。

1-2 研究方法と論文構成

2章ではまず既存の「風景」にかんする論考について述べ、本研究で扱う「風景」の意味を考察する。次に今回の実験について実験工程とその概要について述べる。3章では実験とアンケートより得られた個人のシーンを対象に各個人のシーンの捉え方及びシーンの想起理由を把握してシーンについて分析する。4章ではアンケートから得られた共有したシーン及びその理由を基に共有したシーンについて分析する。5章では3章と4章での分析を踏まえてメンバー間での共有の実態について分析し、6章で結論とする。

第2章 「風景」に関する理論的検討

私たちは視覚によって生きていくために自分の周囲の環境を知覚し、生存に関わる重要な情報を得ている。このように私たちは自分を原点としその取り巻く環境を「風景」として捉えている。更に人間は物事にまとまりや秩序を与えて認識

でき、それは個人が持つ新たな一つの形となる^{注1)}。「自分とその風景、あるいはその風景を共にする人びと」という指摘もある^{注2)}。

今回の実験プロセスを図1に示す。結果54シーンが想起され、54の共有関係が提示された。ここで用語の定義をする。本論で用いる「風景」とは「ビジュアルのイメージの総体」、シーンとは「一つ一つのビジュアルのイメージ」とする。

第3章 個人が持つシーンについて

3-1 個人のシーンの捉え方

本章では、各シーンを想起した理由を抽出し各個人及び場所との関わりを検証する。WORK2のシーンの想起理由を分析したところ以下の7つの要素に分類できた。

感情(F)、人同士の交流(I)、場所(P)、歴史(H)、原爆の歴史(H')、個人の過去(PH)、その他(O)である。全54シーン中感情(F)、人同士の交流(I)を含むシーンはそれぞれ48,34シーンあり両者を同時に含むシーンは30シーンあった。この2項目は個人に関係なくシーンの内容として頻出する項目であった。場所(P)はシーンとして選択した場所の影響力の有無を示し、また個人による場所の意識の差を示していると考えられる。

表1 実験概要

日時場所	2011年11月12~13日、長崎市内
メンバー	コミュニティデザインを専門とする男女9名(日本人6名、アメリカ人3名)
実験概要	メンバー内での風景の交換・共有を目的として長崎の街を一緒に回り、実験手順を行う。

表2 シーン想起理由の集計

要素	F	I	O	P	PH	H	H'
個数	48	34	18	28	9	5	19

3-2 シーンの想起理由と各個人の傾向

各個人で想起理由をみたところ感情(F)と人同士の交流(I)が全員に共通して入っていた。個人の特徴を挙げるとMD、NKは全ての理由からシーンを想起しており、一方でANは感情(F)、人同士の交流(I)、その他(O)よりシーンを想起している。

3-3 シーンの場所と想起理由

複数人のメンバーが選んだ場所のシーンを対象に想起理由との関係についてみる。BAR(4人)のシーンでは人同士の交流



図1 実験および分析プロセスの説明

(I)、一本柱鳥居(3人)のシーンでは感情(F)、原爆の歴史(H)等場所ごとに含まれやすい想起理由があることが分かった。これはその場所の雰囲気、原爆の歴史、そこであった出来事など場所の要素が個人のシーンの想起に影響していると考えられる。

第4章 共有したシーンについて

4-1 個人別でみるシーンの共有について

本章では各シーンへの共有を検証することを目的とする。WORK3では、本章の対象である38シーン^{中注3)}21シーンが共有され54の共有関係が挙げられた。各個人の共有の根拠を3章と同様に分析した結果、1、共有の仕方2、共有の理由に分けられた。1、共有の仕方は表に示すように3つに分類できた。

「①ある出来事や時間、場所を共有し当時の状況や感情を思い出すことで共有」しているのがHSでありYT,YY,AN,YKは①及び「②シーンの想起理由に直接共感し、共有」している。①、②及び「③シーンの想起方法に対して自分の過去の体験を重ね合わせたり、考察を踏まえながら共感して共有」しているのがMD,NKである。

2、共有の理由は3章と同様の分類で説明でき、[感情(F)]が最も多く、次いで[感情(F)、人同士の交流(I)]、[感情(F)、原爆の歴史(H)]、[人同士の交流(I)]、[場所(P)]も複数見られた。共有の仕方と共有の理由の関係については図2に示す。

4-2 多くのメンバーが共有したシーン

4名が共有したのが2シーン、3名、2名、1名、共有されていないシーンはそれぞれ5、9、13、9シーンであった。MD,NK,HSは同じシーンを共有する頻度が高い。(4名で共有する2シーンには全員含まれている。)誰も共有しなかった9シーンには、人、場所、想起理由に特に特徴は見られなかった。

4-3 二者間の共有について

お互いのシーンへの共有関係は、相互に共有するのが13組、一方への共有が7組、お互いに共有しないのが1組であった。YKは共有関係は少ないのだが特定の人(MD、NK)に集中する傾向があり、HSは全般的に共有されていないことが分かる。その他のメンバー間にはまんべんなく共有関係

がある。

第5章 風景の共有について

5-1 共有したシーンの想起理由と共有理由の関係

54の共有関係のうち共有理由が示されていない19の共有関係を除き、想起理由と共有理由を比較検討した結果、両方の理由が完全に一致したのが6、一部一致したのが28、不一致のものが1であった。ほぼ全ての場合に想起理由と共有理由が重なることが分かる。

5-2 想起理由と共有の仕方の関係

想起理由に原爆の歴史(H)が挙げられた12シーンのうち「②シーンの想起理由に直接共感し、共有する。」によって共有されたものが8シーンに上る。「③シーンの想起方法に対して自分の過去の体験を重ね合わせたり、考察を踏まえながら共感して共有する。」の共有の仕方は5共有関係あるが想起理由がすべて人同士の交流(I)、感情(F)を含み共有理由がほぼ全て一致するのが特徴である。また共有すると言っているメンバーが集中していること(MD:3共有関係、NK:2共有関係)、共有されたシーンの想起者も集中していること(YT3共有関係)、共有されたシーンがトラム、ウォーターフロント等移動中の場所であること、等が特徴として確認できた。

第6章 結論

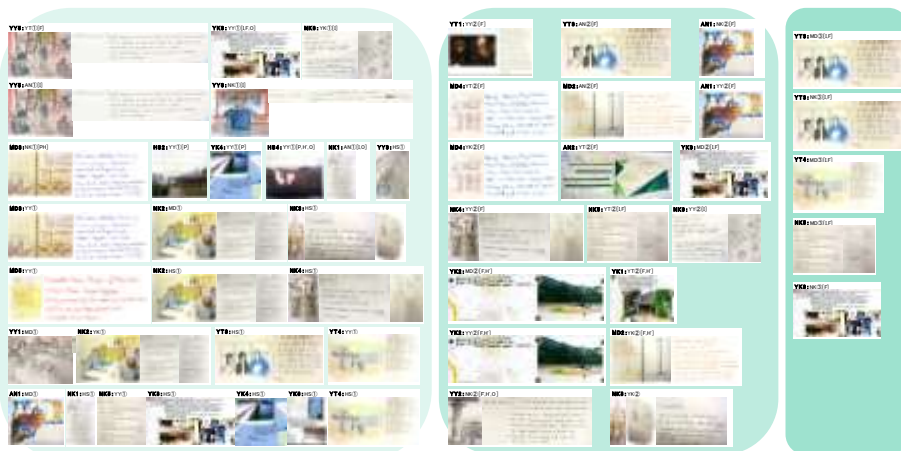
1、実験から54シーンが想起され想起理由は7つに分類された。共有関係の対象となった38シーン中21シーンが共有され54の共有関係が見られた。共有関係は共有については共有の仕方に3パターンあり、共有理由は想起理由で説明できた。2、個人により想起理由、共有の仕方、共有理由に特徴が見られたが、共有関係は共有の仕方①、②に関しては個人の特徴に関わらず見られる。③に関しては共有するメンバーも限定されまた想起理由、共有理由が完全に一致するという特徴が見られた。

3、風景とは個人によって特徴的に構成されるが風景の共有はその特性に依存せず起こると考えられる。また強いインパクトのある歴史、場所、人間関係は共有の仕方に影響を及ぼす。

- 注釈
- 1)「風景学入門」中村良夫(1982)
 - 2)「生きる場の風景」p.73 花崎皋平(1984)
 - 3)アンケートが間に合わなかった2名分の16シーンを除いた。

表3 共有の仕方と共有理由

	①	②	③	④	合計
F	2	9	1		12
F,I		2	4		6
F,H		4			4
I	3	1			4
P	2			2	4
その他	4	1			5
理由なし	19				19
合計	30	17	5	2	54



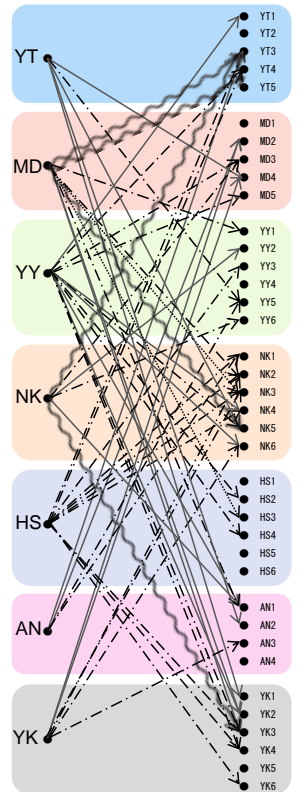
①

②

③

- ①ある出来事や時間、場所を共有し、当時の状況や感情を思い出すことで共有する
- ②シーンの想起理由に直接共感し、共有する
- ③シーンの想起理由に対して自分の過去の体験を重ね合わせたり、考察を踏まえながら共感して共有する

図2 共有の仕方と共有理由



共有の仕方: ①実線、②一点鎖線、③波線を示す

図3 共有関係と共有の仕方